



地域を育み、大陸をつなぐ

2010～2011年度 国際ロータリーのテーマ
レイ・クリンギンスミス

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ 会報

2010 ▶ 2011 WEEKLY REPORT

会長／二ノ宮清信 幹事／森 俊二

留萌ロータリークラブ
会長テーマ

みんなで50周年を祝い ロータリーの輪を拡げよう!!

プログラム

- 本日
来賓卓話「撫子流地域の魅力づくり」
留萌市 市議会議員 村山ゆかり様
- 次週予定
会員卓話「我が生い立ち」
阿部洋一 会員・堀 光輝 会員

- 結婚記念日
- 5月18日 古野 晃洋
 - 5月19日 佐藤 潔
 - 5月21日 辻本 哲也

No. 2463

第40回 5月18日

出席報告

前
例
会

会員総数	45名
出免会員	8名
出免出席	3名
出席会員	25名
出席率	73.81%

前
々
会

第37回 4月20日

欠席会員	6名
内メイクアップ	6名
修正出席率	100.00%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F



会長報告

- 4月28日に理事会およびクラブ協議会を開催しました。この理事会・クラブ協議会で次のことを決定しました。
 - 5月・6月の例会プログラムを承認しました。
 - 4月6日に開催した「漁火夜間例会」の事業および決算報告を承認しました。
 - 6月29日開催予定の「最終夜間例会」の概要を承認しました。
 - クラブの4月までの決算を承認しました。
 - 田中公一 会員の定款第9条3節・(b)項による「1年間の出席免除」を承認しました。
 - 5月29日に行われる「赤平ロータリークラブ創立50周年記念式典」に二ノ宮会長、清水会員、田中会員の3名の参加を承認しま

した。

- 5月・6月に於ける各委員会の活動予定を承認しました。



幹事報告

- 深川、妹背牛、砂川、芦別RCより4月会報、5月プログラムを受領しました。
- 5月12日にPC愛好会が午後7時よりワンポイントで行われます。会費は2,500円です。
- 5月18日に長期計画委員会を午後6時半より富丸で開催いたします。会費は1,000円です。



委員会報告

社会奉仕委員会

森(幹)委員長

春の交通安全週間にちなみ留萌商工会議所主

催の旗の波運動が本日開催されます。時間は4時30分から5時まで、場所はドリームショップ四十坊さんの前です。

3分間情報……………

「出席の意義」

出席はロータリーの特色のひとつで、会員の資格条件にもなっている。

ロータリアンがクラブ例会に規則正しく出席する事は入会のときに受け入れた最も基本的な責務であり、自分のクラブに対し出席という最小限の奉仕であり、さらにその出席率の高い理想に向かって努力する事をロータリーは求めている。

職業分類の原則は業界で地位のある人が選ばれ、クラブ発展のために自分の業界を代表してクラブに反映させ、またクラブを代表してそれぞれの業界に役立つ事である。

欠席はこの双方の権利を破棄する事に他ならない。したがって、会員はなるべく多くの例会に出席する事によって、より多くの知り合いと永続的友情に発展させ、より多くクラブの発展やプロジェクトに関心を持ち、職業道徳を高め、世のため人のため、より多くの奉仕の理想をたくり寄せる事が出来、さらに有能なロータリアンになり続ける事が出来るのである。

【ミニ情報】

「パソコンのデフラグについて」

インターネット上では、以前から「デフラグはハードディスクに負担をかけ、かえって劣化を早める」「“整理”じゃなくて、不要なデータを“削除”する、ディスククリーンアップをすべき」という説があります。実際のところはどのようなんでしょう？

デフラグが行われている間は、ハードディスクはデータの読み書きと整理を同時に行うため、確かに負荷は上昇します。1日に何度も行えば、消耗を早めるかもしれません。デフラグは、必要に応じて行うべきだそうです。ハードディスクの中身が整理されていない状態だと、データ

へのアクセスがスムーズにいかなくなり、常に必要以上に負荷がかかってしまうことも。パソコンの使用状況にもよりますが、『ディスクの分析』で分かる“断片化”したファイルの総量をチェックして、2～3カ月に1度くらいは行っても良いそうです。

ちなみに、ハードディスクが故障する原因は、使用開始から5～6年経ったもので、単純に経年劣化による不調が一番多いそうです。落下などによる物理故障もありますが、基本的にハードディスクは消耗品だと考えた方がいいようです。長持ちさせるためには、時おりパソコン内部を清掃し、空気の循環を良くしておくこと。ハードディスクの弱点は“熱”なので、空気こもらないようにしたほうがいいようです。

《ゲスト》

2510地区第1グループ 實藤ガバナー補佐
例会に任務として訪れましたが、留萌に来ると本当にホッとするので任務を忘れております。先般、二ノ宮会長より50周年式典の取りやめというご案内をいただきました。私も大変楽しみにしておりましたが、歴史ある伝統の留萌クラブが50年をロータリーの心を持って成し遂げていくというお便りをいただきました。今こそロータリーの心を別な形で生かされるのであれば、さすが留萌だなど文面を読みながら感心しました。私は親クラブの留萌さんの子クラブの羽幌クラブでありますので、残念だなどという気持ちは無きにしもあらずでございます。しかし、こういった東日本の災害でございますので仕方がないかなと思っております。

フランスの詩人のポール・クローデルという



方がポール・バレリーにお手紙を差し上げたことがあるそうです。その中で「どうしても減ぼしてはならない民族がある。それは、日本民族だ」と書かれていたそうです。

お互いに手を取り合いながら、そして留萌ロータリークラブが50周年を違う形でつながりを持って人を大切にしていこうという思いであることに、私も教えられたなと感謝いたしました。そしてこの例会に参加できたことを嬉しく思っております。

愛好会

PC愛好会 河部会員

明日12日(木)午後7時、ワンポイントでPC愛好会を開催いたします。

現在参加人数は20名です。例会終了時まで受け付けますので、多数の皆様の参加をお待ちしております。

当日は、軽い食事を済ませてからおいでください。

ニコニコBOX

- ・ガバナー補佐の役目でお邪魔いたしました
第1グループ 實藤ガバナー補佐
- ・昨年10月の地区大会記録誌に写真が出ておりました 直前ガバナー表彰に恥じないように、今後も努力いたします 田中会員

前 回	653,500円
今 回	15,000円
累 計	668,500円

プログラム

【東北関東大震災被災者受け入れプロジェクト】

1. 主 旨

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に端を発する未曾有の災害により、東北・関東各県では、被災者が避難所等での不自由で不安な生活を余儀なくされています。

留萌市では、このような状況下でひとりでも多くの被災者に支援の手を差し伸べ、温かく、安心できる暮らしを取り戻してもらえよう、経済団体と行政機関等がスクラムを組み、留萌市営住宅に被災者を受け入れ、生活を支援する事業を行うものです。

2. 構成団体

留萌商工会議所、留萌市商店街振興組合連合会、留萌商工会議所青年部、(社)留萌青年会議所、NPO法人留萌観光協会、留萌市

プロジェクト代表者

留萌商工会議所 会頭 原田 丈三氏

3. 事業内容

被災地域に在住し、家屋を失い、あるいは原子力発電所の事故により避難所等で生活をする方々(主に留萌市民の家族、親戚縁者等を想定)を、留萌市営住宅(60戸)に受け入れる。

入居に合わせて、市営住宅の備品(照明器具・暖房器具・給湯設備等)を準備し、家財道具、家電、生活用品、学用品等を提供する。

4. 募 金

新聞報道等により市民、企業、団体等にプロジェクトへの協力を求め、募金を呼びかける。

企業等への訪問、商店街振興組合連合会加盟の商店等への募金箱の設置を行う。

~~~~~

留萌市商店街振興組合連合会

専務理事 室本 直俊様

東日本大震災の被災者受け入れプロジェクトを3月18日に留萌商工会議所、留萌市商店街振興組合連合会、留萌商工会議所青年部、(社)留萌青年会議所、NPO法人留萌観光協会、留萌市の6団体で立ち上げました。

私たちは行政が出来ない支援を、留萌に来ていただいた方にしていこうという役目で立ち上げています。最大、当初70軒の受け入れをできる体制を整えておりました。1軒当たりどのくらいかかるのかと試算をしたところ、だいたい50

万円くらいのお金がかかるのではないかとということになりました。今では留萌市の市営住宅に被災者の方をご案内して、一次避難という形でお住まいいただいている方が数多くいらっしゃいます。

現状としましては13世帯で40名の方が避難されてきました。そのうち一番最初に来た10人の世帯は、福島県相馬郡飯館村の方が3月16日にいらっしゃいました。息子さんが留萌の陸上自衛隊に勤務されているという縁で来ていただきました。56歳をはじめとする9人の家族で、沖見町のあかしあに仮住まいをしていただきました。その後、息子さんが南富良野に転勤されたこと、娘さんご家族のお子さんがまだ小さく働く場所を求めたいということで、札幌に転出されました。多いのが福島県6世帯、南相馬市、相馬市、いわき市の方々です。

行政は被災地の方々には市営住宅に住んでもらうが、お風呂・照明器具は住む方が付けなければならず、もちろん3月ですからストーブも必要です。一次避難の方に対して行政はそこまでは手立てをしてくれるという事でした。

しかし、生活をしていくうえで冷蔵庫・テレビ・炊飯器・洗濯機等もあるだろうということで、皆さんから頂いた浄財の中から買い上げ、皆さんから提供いただけるものは使わせていただきました。

広報・回覧などでお願いいたしました、布団・鍋釜・食器などの提供を留萌プラザ1階で受付をさせていただき、皆さんのご厚意により、今来ていらっしゃる被災者の方々に提供することが出来ました。

被災者の方々はたいへん辛かっただろうと思



います。私と会議所の松田専務などと一軒ずつまわり、至らないところもあるだろうとお見舞金として留萌市で使える商品券3万円分を手渡ししてまいりました。

その中でお話を聞きますと、「いつ帰れるかわからない」「お金も使いたくないし」今後どのような生活をしていけばいいのか、足がかりがつかめないというのが現状です。

30代・40代の若い方もいらっしゃいますので、今後就労を含めた援助も見据えながら活動を進めていきたいと思います。

陸前高田市で就労中の方は、5歳と4歳のお子さんがいて三陸町の保育園に通っていたそうです。テレビ等でご覧になった方も多いと思いますが、屋根に上がって助かったという保育園です。お母さんは勤務中で、勤務先は被害に遭いませんでしたが車が流され、子どもさんのところに行けない状態だったそうです。子どもたちもこちらに来て2カ月くらい経ちますが、夜中にうなされることがあるそうです。この方に関しましては6月をめどに、留萌に永住という形で来られるそうです。

行政の問題ですが、一般の被災者という形ですと行政の支援があるそうです。先ほど言いましたように、お風呂や照明器具などは付けてもらえるそうですが、一次避難ではなく移住という形になるとそういう手当が一切ないということです。

ゴールデンウィーク中に茨城ひたちなか市からお二人の方がおいでになられました。その方は、もともと若いころ達布にお住まいでしたが、仕事の関係で茨城に行かれたそうです。どうしても宮城・岩手・福島が被災地といわれていますが、茨城の方も家が倒壊するなど地震が多く住んでいられないということで、留萌に帰ってこられることになりました。しかし、行政の方では一般の方の受け入れとなってしまいます。プロジェクトの中ではそういう方も出てくるであろう、行政で出来ない支援をしていこうと、今回初めてすべてそろえ受け入れさせていただきました。

今後、そういう方が増えていけると捉え



ておりますので3,500万円を目標にしていますが、現在750万円を少し超えたところです。今後とも皆様のご協力を賜りたいと思います。

NPO法人 留萌観光協会

事務局長 海東 剛哲氏

プロジェクトの中の広報を担当させていただいております。

3月18日に立ち上げた段階で、すでに深川市、小樽市ではホームページなどで“被災者受け入れます”と表記している自治体がありました。

そういった自治体はまだ、被災後1週間くらいの時でしたので、家が震災によって全壊された方、または福島原発から当時まだ20kmだったと思います。20km以内に住居がある方というくりの中で“私たち自治体が受け入れますよ”というPRでございました。

留萌のプロジェクトはどうしようかという時に、すでに福島から不安を感じておられた方が来ていらっしゃってることもあり、三番目の項目に「不安を感じていらっしゃる方も是非いらっしゃって下さい」という項目もつけさせていただきました。

まだ10日くらいでは、国や北海道の方針も定まっていませんでした。どこまで留萌市の中で行政に出来ないことを負担できるのか、またチラシも2週間後ぐらいに作成していますが、書くことも制限されていました。ただ、どこまでしかみれないという制限は我々のプロジェクトではできるだけしないで行こうということになりました。極力できる範囲の事をしてあげたいという思いで、受け入れの記事を作らせていただいております。

これからも被災者を留萌市にどんどん受け入れ、その方々が定住するとなると“就職・職探しをどうする”と行政の方からも投げかけられていました。その問題を解決する確かな方策はないのですが、商工会議所の会員の皆さん、各商店街の皆さんに募金箱を置かせていただきました。オール留萌という形で、その中から一人でも二人でも雇用に結び付く事業所が出てくるかもしれません。困っていらっしゃる方がすぐ



そばにいる訳ですから、とにかく動かなければなりません。

当初4世帯の方が市営住宅に入れられ、青年会議所、商工会議所青年部の方々が家具・テレビなどを持って行ってくださいました。

テレビや洗濯機を持っていくと、「皿とかはないですか」と聞かれました。実際、牛乳パックの底を切って小皿にして使っていたり、テーブルの代わりに段ボールを食卓にしていたりという状況でした。なかなか言い出せないものもあるかと思い、一時金として商店街で使える商品券を一世帯に3万円分配らせていただいています。

今後、「留萌に来たい」という方々をどこまで迎えに行くのかなど、色々決めた方がいいのではないかと話も出ました。しかし、その時の状況に応じ、臨機応変に対応していくことになりました。

最初チラシを作るときは、被災地へ向けたチラシでしたが、それを被災地に届ける方策が当初はなく、被災地に作業で入られる自衛隊の方に託すこともできませんでした。

そこで、留萌市民のお知り合いの方で被災している方に伝えてもらおうという主旨の元、今回のチラシを作りました。

留萌市、振興局の職員の方々が1週間交代くらいで被災地に行かれています。その方々にはチラシを持って行って周知をしていただいています。

(先週のつづき)

### 5. 有料老人ホーム

60歳以上の方が生活介護サービスを受ける施設です。看護や介護の専門家が配置されているので、入浴や排せつ、食事などの生活や療養のためのお世話、機能訓練など沢山のサービスを受けることができます。有料老人ホームは大きく3つに分類されています。

#### ①介護付き有料老人ホーム \*七福神

普通の有料老人ホームとは違い、特定施設入居者生活介護という指定を受けた施設を言います。特養と同様で施設内に介護スタッフが常時居りますので緊急時でも安心でき、看護師による健康チェック、血圧や体温などの健康管理、また栄養士による個人個人の身体に合わせたメニューでの健康管理で安心できる居住施設といえます。

#### ②健康型有料老人ホーム \*該当なし

文字通り健康な高齢者が入れる施設です。食事のサービスはついていますが、入居されている方全員が健康な高齢者で、とても明るく元気なのが特徴的です。しかし、介護が必要になると退去しなくてはならないので、介護付き提携施設があるところが望ましいです。

#### ③住宅型有料老人ホーム \*萌福祉サービス

食事などのサービスが付いた高齢者施設です。介護が必要になった時は訪問介護サービスなどが受けられます。この施設のスタッフは看護や介護するというではなく、外部から訪問介護・看護を利用することになり、介護報酬はサービスを受けた分だけなので、介護度が重度になればなるほど費用がかかるという特徴があります。

介護付きと住宅型の大きな違いは、介護付きは区分支給限度額で介護が受け放題です。住宅型は区分支給限度を超えた場合は全額10割負担になりますので気を付けていただきたいと思います。

#### ◆許可外施設について

最近、介護施設らしきグループハウスという類似施設が旭川などでどんどん出ていますが、これは許可のない施設ですので安いからと

いって入居なさらないでいただきたいと思います。部屋の大きさ、スプリンクラーの安全管理、スタッフの雇用体制、看護師や栄養士が常駐していないため健康管理のずさんさ、あげればキリがないのですが、こういった施設に有料老人ホームの認可を取るように国も進めているが、設備投資が出来ない経営事情から改善を無視して運営している施設が後を絶たないのが現状です。私自身はこうした現状を、一人でも多くの介護を必要とする人に伝えていきたいと考えています。

#### ◆良い施設の選び方について

最後に、今後良い施設の選び方として

1. 利用料金(家賃・食事代・管理費)などの全ての項目が入った金額提示をしているか?中には小さい文字で洗濯1回いくらだとか、送迎1回いくらだとか、お風呂の介助1回いくらだとか、こっそり表示してある施設が多数あるので気を付けること。
2. 現在介護負担は1割ですが、社会保障費も底をつき、団塊の世代の介護需要を考えるとこれ以上現役世代に負担はかけられないことなど、貯蓄大国日本の80%が65歳以上の方が持っているので、私の予想ですが今後は2割負担になるものと考えています。従って、2割負担を考慮して入居施設の料金を考える必要があると思います。
3. 施設のハード面にお金をかけすぎてソフト面を疎かにしていないか?人の入れ替わりの激しい施設は虐待やヒヤリハットの事故が多いので、離職数をチェックすることをお勧めします。
4. 施設のイベントや行事を見学させてもらい、入居者の顔の表情を見ると施設の取り組む姿勢がわかります。
5. 運営体制・入居者へのおもいやり・従業員への心配りの3つのバランスがいい施設(七福神の信念)  
この5つの項目を参考にして、施設を選んでいただきたいと思います。  
ご清聴ありがとうございました。